2025年度防衛医科大学校病院麻酔科専門研修プログラム

１．プログラムの概要と特徴

本プログラムは防衛省・自衛隊に任官している麻酔科医師が専門医の資格を取得するために作成されている。なお、自衛隊医官の任務の性質上、たとえ本プログラムの進行中であっても、プログラムを中断し任務を最優先して遂行する義務がある。

概要は、責任基幹施設である防衛医科大学校病院、関連研修施設の東京大学医学部附属病院、札幌医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、杏林大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター(以下　仙台医療センター)、医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院(以下　福岡徳洲会病院)、北海道循環器病院、自衛隊中央病院、都立小児総合医療センター、独立行政法人国立病院機構村山医療センター(以下　村山医療センター)、国家公務員共済組合連合会　三宿病院(以下　三宿病院)、自衛隊札幌病院，自衛隊横須賀病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

２．プログラムの運営方針

プログラムに参加する全ての専攻医において､経験目標に必要な特殊症例数を達成できるように努力する。

	卒後3年目	卒後4年目	卒後5年目	卒後6年目	卒後7年目	卒後8年目
プログラム①	プログラム1年目 自衛隊中央病院	プログラム2年目 自衛隊中央病院	プログラム3年目 防衛医大病院	プログラム4年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）		
プログラム②	プログラム1年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム2年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム3年目 防衛医大病院	プログラム4年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	プログラム5年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	
プログラム③	プログラム1年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム2年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム3年目 防衛医大病院	プログラム4年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	プログラム5年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	プログラム6年目 自衛隊中央病院
プログラム④	プログラム1年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム2年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）	プログラム3年目 防衛医大病院	プログラム4年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	プログラム5年目 防衛医大病院 （含関連施設研修）	プログラム6年目 自衛隊部隊 （認定病院研修）

３．研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

１）責任基幹施設

防衛医科大学校病院

プログラム責任者：池田健彦

指導医：池田健彦（麻酔）

児玉光厳（麻酔）

高橋哲也（麻酔）

冨田温子（麻酔）

認定病院番号：159

麻酔科管理症例　3712症例

	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	28症例
帝王切開術の麻酔	134症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	54症例
胸部外科手術の麻酔	164 症例
脳神経外科手術の麻酔	174症例

２）関連研修施設

東京大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：内田寛治

専門研修指導医：　内田寛治

伊藤伸子

森芳映

河村岳

室屋充明

坊垣昌彦

朝元雅明

今井洋介

篠川美希

栗島謙
玉井悠歩
平井絢子
牛尾倫子
水枝谷一仁
荒木裕子
平岩卓真

専門医：　井上玲央
佐藤瑞穂
岩切正樹
川島征一郎
古田愛
森主絵美
鄭仁熙
成田隼人
上田雄司
浦中誠
永谷雅子
堤香苗

認定病院番号：1

特徴：大量の教育リソースを活用し成長出来ます。麻酔管理症例、年間 8500 件を超えるバリエーション豊かな手術症例を、充実した指導教育体制の元で学べます。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、周産期管理、基礎研究、臨床研究など多くの麻酔関連活動に触れる機会があり、将来のサブスペシャルティーを考えるのに最適です。全国の医学部より入局者がおり、男女比は約 1:1 です。

札幌医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：山蔭道明

専門研修指導医　(18名)

数馬 聡　(集中治療)

立花俊祐　（麻酔）
佐藤智恵　（麻酔）
山蔭道明　（麻酔，ペインクリニック）
枝長充隆　（麻酔，心臓血管麻酔）
岩崎創史　（緩和医療）
黒田浩光　（集中治療）
早水憲吾　（麻酔）
杉山由紀　（麻酔，集中治療）
澤田敦史　（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）
吉川裕介　（麻酔，心臓血管麻酔）
君塚基修　（麻酔，産科麻酔）
赤塚正幸　（集中治療）
木井菜摘　（麻酔，産科麻酔）
救仁郷達也　（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）
池島雄太　（麻酔，小児麻酔）
新田麻子　（麻酔，区域麻酔）
池島まりこ　（麻酔，産科麻酔）

（麻酔認定病院番号5）
麻酔管理症例数：6633症例
施設の特徴：札幌医科大学附属病院では年間6000件以上の手術症例を行っており，ロボット手術をはじめとした先端医療に対応しています．麻酔科専門医以外に，心臓麻酔，小児麻酔，産科麻酔，神経ブロック，ペインクリニックなどの資格を取得した多くの麻酔科医が在籍しており，専門性の高い指導を受けることができます．

順天堂大学医学部附属順天堂医院
研修実施責任者：川越いづみ
専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
三高千恵子（集中治療）

長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
原 厚子（脳神経外科麻酔）
工藤 治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
菅澤佑介（麻酔全般）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
河内山宰（麻酔全般）
福田征孝（麻酔全般）
安藤 望（麻酔全般）
井上理恵（産科麻酔）
須賀芳文（産科麻酔）
門倉ゆみ子（産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
河合愛子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
川上桃子（ペインクリニック）

専門医：

林 愛（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
山口 愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
塚田里奈（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
後藤良太（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
後藤友理（麻酔全般）
舘山亜弥（麻酔全般）

河内 順（麻酔全般）
箕浦真奈美（産科麻酔）
岸井 絢（麻酔全般）
金子綾香（麻酔全般）
結束さやか（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号：12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

杏林大学医学部付属病院

研修プログラム統括責任者：森山　潔

専門研修指導医：
森山　潔　（集中治療）
萬　知子　（手術麻酔全般・医療安全）
鎮西　美栄子　（緩和医療）
徳嶺　譲芳　（手術麻酔全般・医療安全）
関　博志　（手術麻酔全般・周術期管理）
中澤　春政　（心臓麻酔・術後鎮痛）
小谷　真理子　（集中治療）
渡辺　邦太郎　（区域麻酔・ペインクリニック）
本保　晃　（周術期管理・産科麻酔）
足立　智　（心臓麻酔）
竹内　徳子　（手術麻酔全般）
安藤　直朗　（手術麻酔全般）
澤田　龍治　（区域麻酔・ペインクリニック）

専門医：
朽名　佳代子　（手術麻酔全般）
込山　路子　（手術麻酔全般・心臓麻酔）
江間　章悟　（産科麻酔・小児麻酔）
腰原　未沙　（産科麻酔）
元山　宏展　（手術麻酔全般・集中治療）

秋澤　千尋　　（手術麻酔全般）
川船　麦　　（手術麻酔全般）

認定病院番号 147

特徴：東京都多摩地区の基幹病院です．年間約 7,000 件の麻酔科管理症例があり，麻酔科専門医として必要な手術症例を偏りなく研修することができます．また，日本有数の高度救急救命センター有しているため，多くの急性期疾患患者（多発外傷や広範囲熱傷など）の手術麻酔を学ぶことができます．多摩地域で唯一の大学病院の本院でもあり，ロボット補助下手術や大動脈ステント治療，TAVI，Mitra Clip といった先進医療や高難度手術を経験することができる点も本施設の特徴です．手術麻酔だけでなく，術前診察外来や術後疼痛管理チームの中心として麻酔科が深く携わっており，周術期全体を通じて患者の安全に寄与できる麻酔科医の育成を目指しています．

仙台医療センター

研修実施責任者：吾妻　俊弘

専門研修指導医：吾妻　俊弘（麻酔、老年麻酔、集中治療）
渡辺 洋子（麻酔）
灰谷あづさ（麻酔）
黒瀧　健二（麻酔、心臓麻酔）
狩野　峻子（麻酔）
佐藤　大三（麻酔、集中治療、救急）
田島　つかさ（ペインクリニック、緩和医療）
皆瀬 敦（麻酔）
高橋 浩子（麻酔）

研修委員会認定病院取得（認定病院番号：第１３号）

特徴：令和元年に新築移転．県の基幹災害拠点病院，県ドクターヘリ事業基地病院．地域の中核施設として各科ともに幅広い疾患・年齢層を手術対象としているため，産科，小児，心臓，多発外傷などの緊急手術など多彩な麻酔の経験・習熟が可能．

福岡徳洲会病院

研修実施責任者：責任者：北川 忠司

専門研修指導医：海江田 令次（麻酔、ペインクリニック）
廣田 一紀（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
鳴尾 匡司（麻酔）
北川 忠司（麻酔）
丸内　貴子（麻酔、ペインクリニック）
瀬戸口 大典（麻酔）
吉野 裕子（麻酔、ペインクリニック）
向江 美智子（麻酔、集中治療）
三根　里絵（麻酔）

認定病院番号：689
麻酔科管理症例数：5032症例

特徴：年間10,000件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開術などの緊急手術症例を数多く経験できる。また、地域医療支援病院として、地域医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する。

北海道循環器病院

専門研修指導医：大野翔（麻酔，心臓血管麻酔）
麻酔認定病院番号：1939
麻酔科管理症例数：239症例

自衛隊中央病院

研修プログラム統括責任者：小倉　敬浩
指導医：小倉　敬浩（麻酔）
高榎　由美子（麻酔）
川口　早織（麻酔・ペインクリニック）
平川　由佳（麻酔）
岩永　浩二（麻酔）
金谷　綾奈（麻酔）
大日方　洋文（心臓麻酔・集中治療）
認定病院番号：１６

特徴：自衛隊内で中心的な役割を果たす最終後送病院。オープン化により地域医療にも貢献しており、2 次救急指定病院でもある。有事および各種事態に備え、大量傷者訓練等各種訓練を実施している。

東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：　西部　伸一

専門研修指導医：　西部　伸一　　（小児麻酔）
　　山本　信一　　（小児麻酔）
　　簑島　梨恵　　（小児麻酔）
　　伊藤　紘子　　（小児麻酔）
　　箱根　雅子　　（小児麻酔）
　　佐藤　慎　　（小児麻酔）

専門医　　：福島　達郎　　（小児麻酔）
　　千田雄太郎　　（小児麻酔）
　　和田　涼子　　（小児麻酔）
　　島崎　咲　　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が4000件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

村山医療センター

研修実施責任者：高松功

麻酔専門医：高松功
　　:児玉麻依子
　　:嶋田哲也

認定病院番号：1877

『骨・運動器疾患』の臨床研究施設として国内外の大学の整形外科やその他の研究

施設と比較してもトップレベルの施設である。とくに脊髄損傷の分野では多くの臨床と神経機能を回復させるための脊髄再生に関する研究を行っている

麻酔管理症例数　　1883症例

三宿病院

研修実施責任者：竹田 智子（麻酔）

専門研修指導医：

竹田 智子（麻酔）

荒川 隆司（麻酔）

岡本 孝則（麻酔）

認定病院番号：１３９６

2022年度の麻酔管理症例は５８３

胸外５　脳外１１６

特徴：

自衛隊中央病院に隣接する2次救急指定病院．高齢者手術症例が多く，自衛隊中央病院では少ない脳神経外科手術症例が豊富にある

自衛隊札幌病院

研修実施責任者：本光恵太

麻酔専門医：本光恵太

認定病院番号：1884

麻酔管理症例数　377症例

自衛隊横須賀病院

研修実施責任者：石垣さやか

指導医：石垣さやか

認定病院番号：　1074

麻酔管理症例数　281症例

４．募集定員

10名

５．プログラム責任者　問い合わせ先

池田　健彦

防衛医科大学校病院

麻酔科

埼玉県所沢市並木３丁目２番地

TEL (04)2995-1511

６．本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１　基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a)　自律神経系
b)　中枢神経系
c)　神経筋接合部
d)　呼吸
e)　循環
f)　肝臓
g)　腎臓
h)　酸塩基平衡，電解質
i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬
b)　静脈麻酔薬
c)　オピオイド
d)　筋弛緩薬
e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術
c)　胸部外科
d)　成人心臓手術
e)　血管外科
f)　小児外科
g)　小児心臓外科
h)　高齢者の手術
i)　脳神経外科
j)　整形外科
k)　外傷患者
l)　泌尿器科
m)　産婦人科
n)　眼科
o)　耳鼻咽喉科
p)　レーザー手術
q)　口腔外科
r)　臓器移植
s)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２　診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a)　血管確保・血液採取
b)　気道管理
c)　モニタリング
d)　治療手技
e)　心肺蘇生法
f)　麻酔器点検および使用
g)　脊髄くも膜下麻酔
h)　鎮痛法および鎮静薬
i)　感染予防

目標３　マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４　医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともにon the job training環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５　生涯教育

医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM,

統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する．ただし，帝王切開手術，胸部外科手術，脳神経外科手術に関しては，一症例の担当医は１人，小児と心臓血管手術については一症例の担当医は２人までとする．

・小児（6歳未満）の麻酔	25症例
・帝王切開術の麻酔	10症例
・心臓血管外科の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	25症例
・胸部外科手術の麻酔	25症例
・脳神経外科手術の麻酔	25症例

７．各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って，各参加施設において，それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い，その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

８.専門研修の評価

①　形成的評価

１）専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
２）研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全

専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

１） 研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

２）多職種評価

年度ごとに多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする。

９． 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

10．専門研修管理委員会の運営計画及び専門研修プログラムの評価

本研修プログラムは、プログラム統括責任者のもとで、各施設の研修責任者で構成される専門研修管理委員会によって、定期的に評価、改善される。研修プログラム管理委員会は，各専攻医からの報告を通じて，各施設における研修の状況を分析し，必要があれば各施設の研修指導医ならびに研修実施責任者に対して，フィードバックを行い研修環境の改善を指示する。また、基幹施設で開催されるFD講習会や日本麻酔科学会のe-learningを通じて、専門研修指導医の指導能力向上に努める。

防衛医科大学校病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a) 自律神経系

b) 中枢神経系

c) 神経筋接合部

d) 呼吸

e) 循環

f） 肝臓

g） 腎臓

h） 酸塩基平衡，電解質

i） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬

b） 静脈麻酔薬

c） オピオイド

d） 筋弛緩薬

e） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科

b） 腹腔鏡下手術

c） 胸部外科

d） 成人心臓手術

e） 血管外科

f） 小児外科

g） 高齢者の手術
h） 脳神経外科
i） 整形外科
j） 外傷患者
k） 泌尿器科
l） 産婦人科
m） 眼科
n） 耳鼻咽喉科
o） レーザー手術
p） 口腔外科
q） 臓器移植
r） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取
b） 気道管理
c） モニタリング
d） 治療手技
e） 心肺蘇生法
f） 麻酔器点検および使用
g） 脊髄くも膜下麻酔

h)　鎮痛法および鎮静薬
i)　感染予防

目標３(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．
１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．
③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特

殊麻酔を担当医として経験する.

・小児（6 歳未満）の麻酔

・帝王切開術の麻酔

・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）

・胸部外科手術の麻酔

・脳神経外科手術の麻酔

東京大学医学部附属病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する. 具体的には下記の４つの資質を修得する.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する.

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している.

b)　麻酔の安全と質の向上 : 麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる.

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している.

a)　自律神経系

b)　中枢神経系

c)　神経筋接合部

d)　呼吸

e)　循環

f)　肝臓

g)　腎臓

h)　酸塩基平衡，電解質

i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬

b)　静脈麻酔薬

c)　オピオイド

d)　筋弛緩薬

e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術

c)　血管外科

d)　小児外科

e)　脳神経外科

f)　整形外科

g)　外傷患者
h)　泌尿器科
i)　産婦人科
j)　眼科
k)　耳鼻咽喉科
l)　レーザー手術
m)　口腔外科
n)　臓器移植
o)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

a)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
b)　血管確保・血液採取
c)　気道管理
d)　モニタリング
e)　治療手技
f)　心肺蘇生法
g)　麻酔器点検および使用
h)　脊髄くも膜下麻酔
i)　鎮痛法および鎮静薬
j)　感染予防

目標３(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔

・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

札幌医科大学附属病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標
安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標
目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．
１）総論：
a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．
b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．
２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．
a)　自律神経系
b)　中枢神経系
c)　神経筋接合部
d)　呼吸
e)　循環
f)　肝臓

g)　腎臓

h)　酸塩基平衡，電解質

i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬

b)　静脈麻酔薬

c)　オピオイド

d)　筋弛緩薬

e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術

c)　血管外科

d)　小児外科

e)　脳神経外科

f)　整形外科

g)　外傷患者

h)　泌尿器科
i)　産婦人科
j)　眼科
k)　耳鼻咽喉科
l)　レーザー手術
m)　口腔外科
n)　臓器移植
o)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

a)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
b)　血管確保・血液採取
c)　気道管理
d)　モニタリング
e)　治療手技
f)　心肺蘇生法
g)　麻酔器点検および使用
h)　脊髄くも膜下麻酔
i)　鎮痛法および鎮静薬
j)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，

患者の命を助けることができる．
１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔

・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

順天堂大学医学部附属順天堂医院研修カリキュラム到達目標

①一般目標
安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標
目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．
１）総論：
a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．
b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．
２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．
a)　自律神経系
b)　中枢神経系
c)　神経筋接合部
d)　呼吸
e)　循環
f)　肝臓

g)　腎臓

h)　酸塩基平衡，電解質

i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬

b)　静脈麻酔薬

c)　オピオイド

d)　筋弛緩薬

e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術

c)　血管外科

d)　小児外科

e)　脳神経外科

f)　整形外科

g)　外傷患者

h)　泌尿器科
i)　産婦人科
j)　眼科
k)　耳鼻咽喉科
l)　レーザー手術
m)　口腔外科
n)　臓器移植
o)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

a)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
b)　血管確保・血液採取
c)　気道管理
d)　モニタリング
e)　治療手技
f)　心肺蘇生法
g)　麻酔器点検および使用
h)　脊髄くも膜下麻酔
i)　鎮痛法および鎮静薬
j)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，

患者の命を助けることができる．
１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔

・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

杏林大学医学部附属病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標
安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標
目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．
１）総論：
a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．
b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．
２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．
a)　自律神経系
b)　中枢神経系
c)　神経筋接合部
d)　呼吸
e)　循環
f)　肝臓

g)　腎臓

h)　酸塩基平衡，電解質

i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬

b)　静脈麻酔薬

c)　オピオイド

d)　筋弛緩薬

e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術

c)　血管外科

d)　小児外科

e)　脳神経外科

f)　整形外科

g)　外傷患者

h)　泌尿器科
i)　産婦人科
j)　眼科
k)　耳鼻咽喉科
l)　レーザー手術
m)　口腔外科
n)　臓器移植
o)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

a)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
b)　血管確保・血液採取
c)　気道管理
d)　モニタリング
e)　治療手技
f)　心肺蘇生法
g)　麻酔器点検および使用
h)　脊髄くも膜下麻酔
i)　鎮痛法および鎮静薬
j)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，

患者の命を助けることができる．
１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔

・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

仙台医療センター研修カリキュラム到達目標

①一般目標
安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標
目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．
１）総論：
a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．
b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．
２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．
a)　自律神経系
b)　中枢神経系
c)　神経筋接合部
d)　呼吸
e)　循環
f)　肝臓
g)　腎臓

h)　酸塩基平衡，電解質

i)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬

b)　静脈麻酔薬

c)　オピオイド

d)　筋弛緩薬

e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a)　腹部外科

b)　腹腔鏡下手術

c)　血管外科

d)　小児外科

e)　脳神経外科

f)　整形外科

g)　外傷患者

h)　泌尿器科

i） 産婦人科
j） 眼科
k） 耳鼻咽喉科
l） レーザー手術
m） 口腔外科
n） 臓器移植
o） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

a） 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
b） 血管確保・血液採取
c） 気道管理
d） モニタリング
e） 治療手技
f） 心肺蘇生法
g） 麻酔器点検および使用
h） 脊髄くも膜下麻酔
i） 鎮痛法および鎮静薬
j） 感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）

・脳神経外科手術の麻酔

福岡徳洲会研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

j)　自律神経系

k)　中枢神経系

l)　神経筋接合部

m)　呼吸

n)　循環

o)　肝臓

p)　腎臓

q)　酸塩基平衡，電解質

r)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

f） 吸入麻酔薬

g） 静脈麻酔薬

h） オピオイド

i） 筋弛緩薬

j） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

g） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

h） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

i） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

j） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

k） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

l） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

p） 腹部外科

q） 腹腔鏡下手術

r） 血管外科

s） 小児外科

t） 脳神経外科

u） 整形外科

v） 外傷患者

w） 泌尿器科

x） 産婦人科

y） 眼科

z） 耳鼻咽喉科

aa） レーザー手術

bb)　口腔外科
cc)　臓器移植
dd)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

k)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
l)　血管確保・血液採取
m)　気道管理
n)　モニタリング
o)　治療手技
p)　心肺蘇生法
q)　麻酔器点検および使用
r)　脊髄くも膜下麻酔
s)　鎮痛法および鎮静薬
t)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

北海道循環器病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

s)　自律神経系

t)　中枢神経系

u)　神経筋接合部

v)　呼吸

w)　循環

x)　肝臓

y)　腎臓

z)　酸塩基平衡，電解質

aa)　栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

k） 吸入麻酔薬

l） 静脈麻酔薬

m） オピオイド

n） 筋弛緩薬

o） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

m） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

n） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

o） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

p） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

q） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

r） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

ee） 腹部外科

ff） 腹腔鏡下手術

gg） 血管外科

hh） 小児外科

ii） 脳神経外科

jj） 整形外科

kk） 外傷患者

ll） 泌尿器科

mm） 産婦人科

nn） 眼科

oo） 耳鼻咽喉科

pp） レーザー手術

qq)　口腔外科
rr)　臓器移植
ss)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

u)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．
v)　血管確保・血液採取
w)　気道管理
x)　モニタリング
y)　治療手技
z)　心肺蘇生法
aa)　麻酔器点検および使用
bb)　脊髄くも膜下麻酔
cc)　鎮痛法および鎮静薬
dd)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

自衛隊中央病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a) 自律神経系

b) 中枢神経系

c) 神経筋接合部

d) 呼吸

e) 循環

f) 肝臓

g) 腎臓

h) 酸塩基平衡，電解質

i) 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬
b） 静脈麻酔薬
c） オピオイド
d） 筋弛緩薬
e） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科
b） 腹腔鏡下手術
c） 胸部外科
d） 成人心臓手術
e） 血管外科
f） 小児外科
g） 高齢者の手術
h） 脳神経外科
i） 整形外科
j） 外傷患者
k） 泌尿器科
l） 産婦人科

m） 眼科
n） 耳鼻咽喉科
o） レーザー手術
p） 口腔外科
q） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取
b） 気道管理
c） モニタリング
d） 治療手技
e） 心肺蘇生法
f） 麻酔器点検および使用
g） 脊髄くも膜下麻酔
h） 鎮痛法および鎮静薬
i） 感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・胸部外科手術の麻酔
・脳神経外科手術の麻酔

都立小児総合医療センター研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

bb）自律神経系

cc）中枢神経系

dd）神経筋接合部

ee）呼吸

ff）循環

gg）肝臓

hh）腎臓

ii）酸塩基平衡，電解質

jj）栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

p）吸入麻酔薬

q） 静脈麻酔薬

r） オピオイド

s） 筋弛緩薬

t） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

s） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

t） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

u） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

v） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

w） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

x） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

tt） 腹部外科

uu） 腹腔鏡下手術

vv） 血管外科

ww） 小児外科

xx） 脳神経外科

yy） 整形外科

zz） 外傷患者

aaa） 泌尿器科

bbb） 産婦人科

ccc） 眼科

ddd） 耳鼻咽喉科

eee） レーザー手術

fff） 口腔外科

ggg） 臓器移植

hhh） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

ee） 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

ff） 血管確保・血液採取

gg） 気道管理

hh） モニタリング

ii） 治療手技

jj） 心肺蘇生法

kk） 麻酔器点検および使用

ll） 脊髄くも膜下麻酔

mm） 鎮痛法および鎮静薬

nn） 感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

村山医療センター研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

kk）自律神経系

ll）中枢神経系

mm）神経筋接合部

nn）呼吸

oo）循環

pp）肝臓

qq）腎臓

rr）酸塩基平衡，電解質

ss）栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

u） 吸入麻酔薬

v） 静脈麻酔薬

w） オピオイド

x） 筋弛緩薬

y） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

y） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

z） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

aa） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

bb） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

cc） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

dd） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

iii） 腹部外科

jjj） 腹腔鏡下手術

kkk） 血管外科

lll） 小児外科

mmm） 脳神経外科

nnn） 整形外科

ooo） 外傷患者

ppp） 泌尿器科

qqq） 産婦人科

rrr） 眼科

sss） 耳鼻咽喉科

ttt） レーザー手術

uuu)　口腔外科

vvv)　臓器移植

www)　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

oo)　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

pp)　血管確保・血液採取

qq)　気道管理

rr)　モニタリング

ss)　治療手技

tt)　心肺蘇生法

uu)　麻酔器点検および使用

vv)　脊髄くも膜下麻酔

ww)　鎮痛法および鎮静薬

xx)　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

三宿病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

tt）自律神経系

uu）中枢神経系

vv）神経筋接合部

ww）呼吸

xx）循環

yy）肝臓

zz）腎臓

aaa）酸塩基平衡，電解質

bbb）栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作

用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

z） 吸入麻酔薬

aa） 静脈麻酔薬

bb） オピオイド

cc） 筋弛緩薬

dd） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

ee） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

ff） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

gg） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

hh） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

ii） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

jj） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

xxx） 腹部外科

yyy） 腹腔鏡下手術

zzz） 血管外科

aaaa） 小児外科

bbbb） 脳神経外科

cccc） 整形外科

dddd） 外傷患者

eeee） 泌尿器科

ffff） 産婦人科

gggg） 眼科

hhhh） 耳鼻咽喉科

iiii） レーザー手術

jjjj） 口腔外科

kkkk） 臓器移植

llll） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

yy） 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

zz） 血管確保・血液採取

aaa） 気道管理

bbb） モニタリング

ccc） 治療手技

ddd） 心肺蘇生法

eee） 麻酔器点検および使用

fff） 脊髄くも膜下麻酔

ggg） 鎮痛法および鎮静薬

hhh） 感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもっ

て，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

自衛隊札幌病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

1. 自律神経系
2. 中枢神経系
3. 神経筋接合部
4. 呼吸
5. 循環
6. 肝臓
7. 腎臓
8. 酸塩基平衡，電解質
9. 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

ee)　吸入麻酔薬

ff)　静脈麻酔薬

gg)　オピオイド

hh)　筋弛緩薬

ii)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

kk)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

ll)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

mm)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

nn)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

oo)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

pp)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

mmmm)　腹部外科

nnnn)　腹腔鏡下手術

oooo)　血管外科

pppp)　小児外科

qqqq)　脳神経外科

rrrr)　整形外科

ssss)　外傷患者

tttt)　泌尿器科

uuuu)　産婦人科

vvvv)　眼科

wwww)　耳鼻咽喉科

xxxx)　レーザー手術

yyyy） 口腔外科

zzzz） 臓器移植

aaaaa） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

iii） 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

jjj） 血管確保・血液採取

kkk） 気道管理

lll） モニタリング

mmm） 治療手技

nnn） 心肺蘇生法

ooo） 麻酔器点検および使用

ppp） 脊髄くも膜下麻酔

qqq） 鎮痛法および鎮静薬

rrr） 感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔

自衛隊横須賀病院研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

ccc）自律神経系

ddd）中枢神経系

eee）神経筋接合部

fff）呼吸

ggg）循環

hhh）肝臓

iii）腎臓

jjj）酸塩基平衡，電解質

kkk）栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

jj)　吸入麻酔薬

kk)　静脈麻酔薬

ll)　オピオイド

mm)　筋弛緩薬

nn)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

qq)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

rr)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

ss)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

tt)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

uu)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

vv)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

bbbbb)　腹部外科

ccccc)　腹腔鏡下手術

ddddd)　血管外科

eeeee)　小児外科

fffff)　脳神経外科

ggggg)　整形外科

hhhhh)　外傷患者

iiiii)　泌尿器科

jjjjj)　産婦人科

kkkkk)　眼科

lllll)　耳鼻咽喉科

mmmmm)　レーザー手術

nnnnn）　　口腔外科

ooooo）　　臓器移植

ppppp）　　手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

sss）　基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

ttt）　血管確保・血液採取

uuu）　気道管理

vvv）　モニタリング

www）　治療手技

xxx）　心肺蘇生法

yyy）　麻酔器点検および使用

zzz）　脊髄くも膜下麻酔

aaaa）　鎮痛法および鎮静薬

bbbb）　感染予防

目標３（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・脳神経外科手術の麻酔